

11月6日、秋の環境行政懇談会を神奈川県環境農政局と開催した。冒頭、中島局長より神奈川県の逼迫する財政に関して、緊急財政対策の説明があり協力を依頼された。

かながわスマートエネルギー構想の進捗

○ 県は「ソーラバンクシステム」として、太陽光発電を出来るだけ安く、かつ安心して設置出来るように、定型化した設置プランの認定を行なっている。現在、戸建で36プラン、共同住宅で21プラン、産業用で8プランを認定済み。

○ 「県有施設の屋根貸し」として20施設に太陽光発電を設置する業者を募集した。現在、業者から応募があり選考中。更に県立学校の屋上を対象に第2弾の公募を実施中。民間の屋根貸しマッチング事業も実施中であり利用を依頼された。

○ 県有地を利用したメガソーラ設置では、愛川町の「元総合グランド半原荘」3.2万m²へ1,891kWのパネルを設置する予定。

○ 本年7～9月の10kW以上の太陽光認定状況では、神奈川県は135件（全国7,696件）、3,464



挨拶する弟子丸委員長

kW(同1,035,646kW)と全国平均を大きく下回っている。工場の屋根の積極的活用を依頼された。

エコロジカル・フットプリント

人類の活動が地球へ与える環境負荷と、地球の浄化能力を比較して表示する試みがエコロジカル・フットプリントとして始まっている。2007年時点で、人類は地球へ地球1.5個分の環境負荷をかけており、2030年には地球2個分の負荷へ増大すると予想されている。現在、日本人は地球2.3個分、アメリカ人は地球4.5個分の負荷をかけている。
(文責事務局)